

ごあいさつ

このたび「愛光テニスクラブいっきゅう会」の会長に就任いたしました愛光学園 29 期の京河です。

本会は、愛光学園 1 期の船引先輩、山本先輩たち一部の愛光同窓生が愛光学園の元英語教員の白石先生とテニスを楽しみながら旧交を温めておられた活動に始まっております。この「いっきゅう会」という名称についても白石先生たちと共に考えて命名されたそうです。

私よりもこの会の初代会長にもっと相応しい方々がいらっしゃると思いますが、私は「この活動を愛光同窓生全体に広げ、愛光学園の発展とともに発展させ、現役のテニス部員の部活動を応援し続けたい」という先輩方の意思に賛同し、この意思を代々受け継いでいきたいという思いで、また同窓会の準支部として地元松山を拠点にできるだけ早く活動したかったことから、正式な同窓会の準支部「愛光テニスクラブいっきゅう会」の会長を受けさせていただきました。そしてこのような経緯から私の身近な人脈でいっきゅう会の活動を始めさせていただくことをご容赦いただきたいと思います。

聞くとところによると、愛光が高体連に加盟したのは昭和 54 年ということで、我々 29 期を中心としたチームが昭和 60 年の夏に総体県予選で団体戦準優勝したのは愛光が公式戦に参加し始めてから 6 年目くらいの話のようです。

県予選で準優勝したことで高松で開催された四国大会にも臨むことになりましたが、そこでは残念ながら好成績を収めることはできなかったと記憶しています。成績よりも鮮明に覚えているのは宿舎でのことで、高知の進学校 T 高校の女子テニス部がやはり四国大会に出場していたのですが、その女子テニス部員が愛光の男子テニス部に「ちょっとお話ししましょう」と部屋に電話してくれて、1 時間以上もの間ドキドキしながらお互いに代わる代わる話し続けたことでした。振り返ってみると、こんな風に部活動にも充実していた 29 期は、だからこそ勉強にも励むことができたのかもしれないな、と思います。

その後も愛光テニス部は数々の戦績を上げてきたものと思いますが、これからも愛光テニス部員には部活動と勉強を中心に充実した学園生活を送っていただきたいと思います。今後、愛光学園のテニス部を応援したいというお気持ちを共有できる愛光同窓生との新たな出会いを楽しみにしております。

令和 5 年 12 月 15 日

愛光テニスクラブいっきゅう会

会長 京河良誠